

お世話になりました(坂井 勇教授 退官記念論文集)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/4439

お世話になりました

坂井 勇

平成十二年五月一日付けで金沢大学法学部教授を拝命して、はや四年十一月になるうとしています。法務省の職員を三十五年間勤め、満六十歳の定年により退職した後、再就職という形で、本学に拾っていただき、未知の世界に飛び込みました。無我夢中の、あつという間の四年と十一月です。法務省の矯正という職場は、規律の厳しい管理社会でしたから、最初はとまどいもありましたが、さしたる問題も引き起こさず（と思っっています）、二度目の定年を迎えることができますことは、望外の幸せであります。これも、暖かく見守っていただいた先輩同僚諸氏の方々のお陰と厚く感謝申し上げます。講義では、最初のうちは、自分でも肩に力が入りすぎ、学生に対し余裕を持って対処することができなかつたように思いますが、次第に、雰囲気慣れ、コツを覚え、時には教えることの楽しさも感じるようになりました。これから、少しは恩返しができるようになったと思うころに、退職というのは定年とはいえ心残りではありますが、あらかじめ定められたことですので、やむを得ません。

昨年の暮れに、私の刑事政策の講義を受講し、その間、金沢刑務所と湖南学院（少年院）の見学にも参加し、その少年院の見学の際の印象から、法務教官になることを決意し、法務教官採用試験を受け、合格し、卒業後湖南学院の教官に採用されたという元男子学生から、結婚式の招待状をいただき、参列させていただいたことがありました。式の際のスピーチでも申し上げたことですが、大学で刑事政策の講義をしていて、ほんとに良かったなーと実感しました。

私の前任の刑事政策の教授も、法務省の矯正の世界で活躍され、定年を迎えられた後に本学に採用された方ですから、私も、個人的には、同様の人事が行われることを期待しておりましたが、丁度、法科大学院の設立の時期と

重なり、かなえることができませんでした。残念ではありますが、反面、法科大学院の設立に間接的にしる役に立つことができたのではないかと思っています。

この一、二年の間に金沢大学は法人化して国立ではなくなり、法科大学院も発足するなどめまぐるしく環境が変化し、法学部の教員の年齢構成も大幅に若返りました。これからは、若手の教員の方々が牽引車となり、中堅の教員の方々とも力を合わせて法学部を更なる発展へと導いてくれるものと大いに期待しております。

退職後は、埼玉県蕨市の寓居で、引き続き老妻と二人で暮らす予定にしています。ありがとうございました。

二〇〇五年三月吉日